

ともだち、みつけた！

氏名：立野 真未

学校名：豊中市立寺内小学校

担当教科：全教科

実践教科：生活、特活、(総合)、道徳

時間数：6時間(1年生)
2時間(5年生)

対象学年：1年、5年 人数：1年 81名 5年 65名

1. 教師海外研修を通して感じたこと

ネパールへ行き、感じたのは、社会を変えたいという想いや原石はたくさんいるところに転がっているという事である。現地で“社会を良くしていきたい”と思う人々はたくさんいた。社会の受け皿がまだ整っていない中でその原石をどう生かすかにかかっていると感じた。一人ひとりの行動力やエンパワーメントの強さが社会を変えていくことを目の当たりにし、感心した。

JICAの事業支援などでは草の根支援のスタンスは押し付けでなく、現地の習慣や文化に合わせて一緒に行うことが大事だということも学んだ。現地の人の思いや夢などを聞いたことで、子どもたちに多くのことを返せられると思った。(特に人の幸せが自分の幸せだということに多くを考えさせられた。)

学校やホームステイ先の子どもたちはきらきらした笑顔がたくさんあって、どの国でも同じだなあと思い嬉しく感じた。

たくさん研修内容でしたが、日々の振り返りを通して沢山の先生と意見交換することで、学びをより一層深くすることができました。貴重な経験を通して、気づきや学びも多く、子どもたちにどう返していこうと考えることが楽しみでした。

2. 授業実践

【1】単元のテーマ・目標

- ・ネパールの文化を知り、違いを考えることで、お互いに認め合い、友達関係を築こうとする道徳的心情を養う。
- ・幸せや自分にとって大切なことは何か考え、他者と交流することで、さまざまな価値観に気づき認め合えることができる。

【2】単元設定の理由

・ネパールの視察を終え、印象に残っているのは「人のあたたかさ」と「うけいれてくれるやさしさ」である。異文化を知る時、私達は必ず普段の生活と違うことに対する違和感に出会うであろう。

今回の研修でネパールに行った時も、信号のない道路、その中を平然と歩いていく人々、宗教、食文化などいろいろな違いを目のあたりにしてきた。その時に違いを違和感のまま終えてしまうのではなく、相手の文化を受け入れて、お互いに歩みよる必要があると感じた。

そんな「違和感」に出会う場面は、海外だけではなく、普段の日常生活であつても起こることである。自分の中での当たり前は他人であつても当たり前だと思わないことの大切さ、他の人の思いを受け入れる大切さを広めたいと思った。

授業では、ネパールと日本の食文化の違いという切り口から道徳的な事を考えていくようにしたいと考える。
1年生というまだ幼さが残る発達段階ではあるが、お互いに認めあい、やさしさや温かさに目をむけられるような友達関係を築いていく心情を育てたい。

【3】展開計画

(1年生用) (全 6 時間)			
時	テーマ・ねらい	活動内容	使用教材
1 生活	・ネパールってどんな国かな？ ねらい ネパールに興味を持つ。	■ネパールの国旗や場所などを紹介する。 ■ネパールに行って驚いたことは何だろう？ ・どんなことが違うか予想する。	写真
2 生活	・なかのいいお友だちができたよ！ ねらい ネパールの国の文化を知る。	■ネパールの文化紹介をする。 ■私がネパールへ行って驚いたことを伝える。 ■ネパールのお友だちに聞いてみたいこと、感想を記入する。	写真
3 道徳	・ケンカをしたよ。なんでかな？ ねらい 違いに囚われず、どんな友達とも仲良く接する気持ちを持つ。	■ネパールの友達に聞いてみたい質問に対する回答を紹介する。 ・どんなことで変だなと思ったかを予想する。 ■ネパールのお友達ともう一度仲良くするためにはどうしたらいいかを考え、ワークシートに書く。 ■ネパールのお友達と立野先生になりきって、アサーショントレーニングをする。	写真 ワークシート①
4 生活	・世界の国とつながろう 「MADE IN ○○をさがせ！」 (オープンスクール) ねらい ネパールだけではなく、世界の様々な国と関わりがあることに気づく。	■持ち寄った外国製のものを見ながら、どこから来たのか班でワークシートに書いていく。 ■拡大した世界の白地図にものが作られた国をシールで貼っていく。 ■気づいたことを発表する。 ・たくさんのが外国から日本へ入り、つながりをもって生活していることを理解する。	世界の白地図の拡大用紙 外国製の製品 シール ワークシート②
5・6 道徳	・幸せってなんだろう？ ねらい 幸せや大事にしたいことを考える中で、さまざまな意見があることに気づく。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (事前に3つのアンケートに答えてもらう) ・どんなときが幸せ？ ・自分が大切にしているものってなんだろう？ ・1年3組で大事にしたいこと </div> ■事前に答えたテーマについて、いくつかの項目の中から優先順位をつけ、自分でワークシートに並べていく。 ■なぜそう思ったのか理由をききながら班でもう一度優先順位をつけていく。 ■全体でそう並べた考えと理由を発表していく。 ■全体での発表を聞き、気づいたことを言う。 ■私がネパールへ行って驚いたこと②を伝える。 →ネパールの人は他人の幸せ＝自分の幸せである人が多いことを伝える。	ワークシート③

(5年生用) (全2時間)			
1 総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良い友達ができたとよ。ネパールの国ってどんな国かな？ ねらい ・ネパールの国の文化を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ■履いていった(汚れた)靴を見て、どんな国予想する。 ■仲良くなったた友達が住む国(ネパール)の文化を知る。 ■ネパールのお友だちに聞いてみたいこと、感想を記入する。 	履いていった靴 写真
2 総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・けんかをしたよ。なんでかな？ ねらい 文化の違いから思うことを考えることで、お互いに認め合い、友達関係を築こうとする気持ちを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ■食文化の違いを見つける。 ■食べ方の違う日本人の私とネパール人の友達、お互いの気持ちを考える。 ■価値観の違う友だちと仲良くするためには、どうすればいいかをワークシートに書く。 ■振り返りを書く。 	写真 ワークシート①

1 時限目：「ネパールってどんな国かな？」

ねらい…ネパールに興味を持つ。

■ 内容 ■

- ①ネパールの国旗や場所などを紹介する。
- ②ネパールに行って驚いたことは何だろうか？
- ③どんなことが違うか予想する。

◆ 所感 ◆

授業前、1年生はまったく外国に興味関心がない児童がほとんどであった。ネパールについても名前だけは知っているという児童が半数であった。写真でどんな国か予想をし、イメージを膨らませることで、次の授業を早くしてほしい！と次への期待も膨らんでいった。



2 時限目：「なかのいいお友だちができたよ！」

ねらい…ネパールの国の文化を知る。

■ 内容 ■

- ①ネパールへ行ってお友達ができたと伝える。
 - ① ネパールの文化紹介をする。
→言葉・服装・学校・楽器について紹介した。
 - ②私がネパールへ行って驚いたことを伝える。
→人がやさしく、あたたかい文化を持っている国だったこと。
- ② ネパールのお友だちに聞いてみたいこと、感想を記入する。



授業の様子

◆子どもたちの反応

- ・立野先生にお友達できてよかった。
- ・ネパールの音楽や服装、学校のことが知れてよかった。

(5年)

- ・最初は先生の靴を見て、きたなくて何もないところなのかなと思ったけど、民族の服や歓迎してくれたりして、すごく優しくて良い国なんだなと思った。
- ・日本と全然違うことが多くて、違和感を感じた。

5年生の1時間目でもこの内容を扱った。

Ⓟここでは、手作りの衣装や盛大な歓迎など、人のあたたかさにふれられるような文化を扱った。

◆ 所感 ◆

1年生では、言葉に興味を持った子どもたちが多かった。授業後、廊下を通るたびに「ナマステ」「ダンニャバード（ありがとう）」と話しかけたり、遠足で外へ出たときは、外国人とすれ違うたびに挨拶をしようとしていた。5年生では、1時間目にこの内容を扱った。導入で履いていった（汚れた）靴を見て、どんな国か予想してから授業を行った。はじめは汚い、社会が整っていないさそうというマイナスなイメージだったが、ネパールのあたたかい文化を知り、行ってみたい、やさしそうなどプラスのイメージを持ってくれた子どもが多かった。

3時限目：「ケンカをしたよ。なんでかな？」

ねらい…違いに囚われず、どんな友達とも仲良く接する気持ちを持つ

■ 内容 ■

- ① ネパールの友達に聞いてみたい質問に対する回答を紹介する。
- ② どんなことで変だなと思ったかを予想する。
- ③ ネパールのお友達ともう一度仲良くするためにはどうしたらいいかを考え、ワークシートに書く。
- ④ ネパールのお友達と立野先生になりきって、アサーショントレーニングをする。
- ⑤ 振り返りを書く。



お箸で食べている写真。
ネパールのお友達はどう思ったかを考えた。



手で食べている写真。
日本人の立野先生はどう思ったかを考えた。

◆子どもたちの感想

(1年)

- ・友達となかよくなるために大事なことはなにかということが考えられて楽しかった。
- ・いろんな国に違いがあることが知れて楽しかった。

(5年)

- ・その国の文化を知り、お互いに歩み寄ることが大切だと思った。
- ・前は、ネパールの文化を勉強したけど、今回は文化だけでなく、友達と仲良くするために大切なこと（道徳的なこと）も学べてよかった。
- ・日本とネパールで文化も違うし、環境も違うけどその時にどうしたら分かり合えるか考えることが大切だと思った。
- ・ネパールの当たり前は日本人にとって「え？」と思うけど、日本の当たり前はネパール人にとっては「え？」と思うだろうから、それぞれの当たり前があってお互いに良いところも悪いところもあって良いと思う。これをきっかけにいろいろな国の文化や当たり前を知りたいと思った。

◆ 所感 ◆

低学年と高学年での発達段階が違うので理解の仕方が異なる。授業する中で1年生はもともとあまり固定観念がなく、文化に違和感をあまり覚えず、違いをむしろ楽しんでいたように思った。そういうものなんだという感覚なので、なぜ食文化の違いでけんかをした（お互いが変だなと思った）のかわからない児童もいた。なので、文化の違いを扱う授業では、低学年は時間かけて、気持ちに寄り添いながら一つの問題を考える必要があると感じた。そこで、両者の立場に立ち、マイナス言葉とプラス言葉をかけられた時にどう思ったかというアサーショントレーニングを行った。日本人である私たちだけでなく、現地の人（ネパール人）も両者の気持ちを考える授業をすることで、相互理解が進むと感じられた。

4時限目：「世界の国とつながろう～MADE IN ○○をさがせ！～」 (オープンスクール)

ねらい…ネパールだけではなく、世界の様々な国と関わりがあることに気づく。

■ 内容 ■

- ① 外国製のものを持ち寄り、どこから来たのか班でワークシートに書いていく。
- ② 拡大した世界の白地図にものが作られた国をシールで貼っていく。
- ③ 気づいたことを発表する。
- ④ 振り返りを書く。

① 1年生はまだ漢字やローマ字が読めないで、参観していた保護者の方に支援いただき、お家の人に聞きながら、ワークシートに記入させた。

◆子どもたちの感想

- ・いろいろなものが外国から作られて日本に来ていることがわかっておもしろかった。
- ・中国やアメリカからきたものが多いとはじめてわかった。

◆ 所感 ◆

・オープンスクールの際に、身近な外国探しの授業(4時間目)をした。その際、授業を見に来られた1年生の保護者からもコメントを頂いた。

生活の授業では、身近にあるものを自分たちで調べることで、世界を感じられて素敵だなあと思いました。先生がネパールのことをお話してくださってから、テレビや外国のことに目が向くようになり、時々世界地図を眺めて「遠いなあ、何時間ぐらいかかるのかなあ。」とか「○○みたいな形だなあ。」とつぶやいています。子どもが何かに興味を持つには、体験することが大切なんだなあと思感しました。

5・6時限目：「幸せってなんだろう？」

ねらい…幸せや大事にしたいことを考える中で、さまざまな意見があることに気づく。

■ 内容 ■

- ① 自分で3つのことに優先順位をつけ、ワークシートに並べていく。
- ③ なぜそう思ったのか理由をききながら班でもう一度優先順位をつけていく。
- ④ 全体でそう並べた考えと理由を発表していく。
- ⑤ 全体での発表を聞き、気づいたことを言う。
- ⑥ 私がネパールへ行って驚いたこと②
→ネパールの人は他人の幸せ＝自分の幸せである人が多いことを伝える。
- ⑦ 振り返りを書く。

⑥ ダイヤモンドランキングの思考ツールを使い上から順にならべていくことで考えを視覚化させる。

◆子どもたちの感想

- ・友達や家族がうれしいとぼくもうれしくなる。でも自分の心もだいじ。
- ・チームワークやみんなの心が大事だとおもった。
- ・順番がむずかしいけど、自分のことよりも人の幸せが大事なことにびっくりした。



◆ 所感 ◆

・自分の幸せや大事にしたいことなどを考えた際、自分の優先順位を考え、学習班で意見を交流し、班としての優先順位を考えた。なぜそう思ったのか理由を聞く中で、自分の考えが絶対ではないことに気づき、友達の考えと違いがあることに面白さを感じたようである。また、全体で発表する時には、

自分のことより人のことが幸せや大事にしたいことの方が上位に入っているという、気づきの意見も出て、いい雰囲気での授業がクラスでできた。

3. 成果と課題

① 成果



どの授業も楽しみながら取り組んでいた。授業の設定について、人との関わり方は、世界だけでなく、身近なことでもあり、自分の問題として捉えられる事ができたのではないかなと感じた。友達のなり方、伝え方など道徳的な内容も伝えられた事はとても良かった。友達と仲良くなるための授業をした際は、『自分のことより友達の気持ちが一番だよ』とクラスでも声が広がり、やさしくしたいという気持ちが増えたように感じる。

授業後、私のクラスでは、言語に興味を持ち、他の言語での挨拶と「ありがとう」、「ごめんね」を自由帳いっぱい書いてくる子どもがいた。1年生でまだひらがな・カタカナがやっとという時期にこれだけのことを調べ書いてきたことに驚いた。このことをクラスで取り上げると、「自分も調べてみたい！」と多くの子どもたちが国旗や挨拶について調べてきた。ネパールの授業をして良かったなと思える瞬間であった。また、自分で好きなことを調べたい！という気持ちから『自由勉強』というクラスの取り組みに発展し、毎週自分の好きなテーマについて調べ、まとめている。

日照時間や微生物、雪の結晶や昔の日本の都道府県の言い方、秋探しなど、テーマは多種多様で、子どもたちはクラスの友達の学習から学ぶことを楽しみにしている。一人ではなくクラスで学ぶ楽しさを味わえる時間である。

② 課題

限られた時間の中での授業実践だったので、教師主導で授業を行った時間も多くなってしまった。もう少し体験学習を増やしたり、考える時間を十分に確保したりすることで、子どもたちの理解を深めることができたのではないかと考える。

いろいろなクラスで、授業をしたが、日頃のクラスへの言葉かけや学級作りが、授業の中でも現れてくると感じた。普段から何を意識して子どもたちに接するか意識する必要がある。

授業を終えて

ネパール「を」教えるのではなく、ネパール「で」教えたい。子どもたちの日常の様子から考え、普段の生活に戻していきたいと授業を組み立てた。この研修で開発教育の手法を学び、一つ一つ手探りで、授業案を考え、授業できた事はとても自分にとってプラスとなった。

また、この授業の実践を校区の小中学校の研修で報告も行った。開発教育の大切さが認識できたという意見などもあったが、個人の体験が元にある授業なので面白いが、なかなか実践までは難しいなど、振り返りをいただいた。全ての教員が実践できるためには、体験型の学習を実感してもらい、より広めていく必要があると感じた、いい経験であった。

この研修に参加したことで、普段で出会うことのない他校種の先生方とつながり、共に学び、高めあうことができた事はかけがえのない経験となり、宝となった。